

### 第3回日本在宅看護学会学術集会 報告

2013年11月16日（土）、第3回日本在宅看護学会学術集会が東邦大学看護学部において開催され、約400名の参加者が集まりました。

尾崎章子氏（東邦大学）による大会長講演「みんなでつくろう！在宅看護のエビデンス」、高木廣文氏（東邦大学）による教育講演「在宅看護学における知の創出－質的研究と科学をめぐる誤解を解く－」が行われたほか、2つのシンポジウム「在宅療養者・家族の“will”を支える－意思決定支援技術を可視化する－」および「格差社会におけるセーフティネットの構築と在宅看護」ではシンポジストの発表後、活発な質疑応答が行われました。



メイン会場には大勢の参加者が集まった



尾崎章子氏（東邦大学）による大会長講演

一般演題発表は口演24題、示説33題が発表され、昨年の演題数を大きく上回りました。大学等の研究者のみならず、訪問看護ステーションなどの現場から先駆的な取り組みについても多数報告され、在宅看護の実践の知を言語化し、互いに共有する場となりました。今回から設けられた JANHC3 Award は、畠山真由美氏（ベストオーラル賞）、古謝安子氏（ベストポスター賞）、高橋操氏（ベストプラクティス賞）の3名が受賞されました。



示説会場ではポスターを前に活発な  
ディスカッションが行われた



JANHC3 Award 受賞者の皆さんと尾崎大会長